

祇園小学校 一校一徳運動 「明るいあいさつ」

1 目的

祇園中学校区健全育成会と中部地区自治協議会の掲げる「あいさつ通り日本一」（学校・家庭・地域・関係機関共通の子育て目標）の具現化を目指す。

2 道徳教育との関連

（1）総則の道徳教育

登下校を含め、学校の教育活動全体を通して、「明るいあいさつ」の指導を行う。

（2）特別の教科 道徳

特に、「B 主として人との関わりに関すること」の「礼儀」との関連で指導を行う。

〔低学年〕気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。

〔中学年〕礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。

〔高学年〕時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。

（中学校）礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な行動をとること。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編から】

人との関わりにおける習慣の形成に関するものであり、相互の心を明るくし、人と人との結び付きをより深いものにするための適切な礼儀正しい行為に関する内容項目である。

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。つまり、礼儀とは、心が礼の形になって表れることであり、礼儀正しい行為をすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。

また、礼儀は、具体的には、挨拶や言葉遣い、所作や動作など作法として表現されるが、それは、人間関係を豊かにして社会生活を円滑に営めるようにするために創り出された文化の一つであるということができる。よい人間関係を築くためには、まず、相手に対して真心がこもった気持ちのよい応対ができなければならない。そのような応対は人としての生き方の基本であり、まずは大人が作法として教えることから始まる。それらを、さらに、例えば真心がこもった態度や時と場をわきまえた態度など礼節をわきまえた行為へと深めていくことが必要である。真心とは相手のことを親身に思いやる心であり、形となって表されることにより、誠意のある行為につながる。人との関わりにおいて、どのような振る舞いが好ましいのかを考えさせることは大切なことである。

※ 相手を意識し、自分も相手も気持ちよくなるように、「明るいあいさつ」の声を出させる。相手を意識したあいさつの繰り返し（習慣化）により、真心がこもった応対ができるようにする。（学校で→登下校で→家庭や地域で）

※ 個人差に配慮しながら、一人一人児童への声かけを。